

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-29

学校名・団体名	見附市立新潟小学校
HPアドレス	<a href="http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~mniigata/">http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~mniigata/</a>
コース	学校支援
活動・研究テーマ	地域に誇りをもつ心豊かな子どもの育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 地域に伝わる獅子舞の歴史やいわれを調べたり、保存会の方の思いや苦勞に触れたりすることを通して、伝統芸能や伝統文化の大切さに気付く、地域を愛する子どもを育成する。</li><li>○ 発表活動や他の伝統芸能にかかわる学校や地域との交流活動をすることで自らの思いを伝え、その学びを通し、自らの生き方や新しい価値に気付く。</li></ul>	

## 1 「小栗山不動院獅子舞」の継承活動を推進

獅子舞には笛・太鼓・獅子舞・神楽舞のパートがある。隔週の金曜日6限(総合的な学習の時間)に獅子舞保存会の方から来校していただき、舞やお囃子について直接指導を受けた。楽譜や動きの本がないため、全てのことを頭と体で覚えて学んだ。練習は正座での礼で始まり、礼で終わる。「教えてもらったとおりに演ずる」日本文化の世界に入る貴重な経験を積むことができた。



(1) 獅子舞の調べ学習と全校で獅子舞について学ぶ「獅子の日」を実施  
4、5、6年生が総合的な学習の時間を中心に、獅子舞の歴史や地域での継承の様子、保存会の方の思いなどを調べ、伝統芸能の意味と継承の大切さに気づき、地域に伝えていく活動を行った。



年2回(6月と2月)、「獅子の日」を学校行事として設定し、高学年が低・中学年に獅子舞の歴史やいわれを伝えたり、笛・太鼓・獅子頭・神楽に直接触れたりする活動を通し、全校の子どもたちが獅子舞とかかわる取組を行った。

(2) 伝統を受け継ぎ、県内外に発信する活動を実施

教わった獅子舞を県内外の方に披露し、学区に昔から伝わるすばらしい伝統芸能があることを知らせ、継承の大切さを伝える取組を行った。

ア) 7月5日の新潟県の招待を受け「新潟県母子寡婦福祉大会」で舞を披露

イ) 8月10日に行われた「小栗山不動院観世音大祭」で、5・6年生が舞を披露

ウ) 10月18日の学校の文化祭で6年生が舞を披露

エ) 10月24日の地域コミュニティのフェスティバルで5年生が舞を披露

オ) 11月28日の「獅子舞継承活動20周年を祝う会」で6年生が舞を披露

カ) 2月11日の見附市が主催する「建国記念式典」で5年生が舞を披露

キ) 2月26日の「獅子頭完成記念式典」で6年生が舞を披露

ク) 3月21日の見附市主催「大芸能祭2016」で5年生が舞を披露する予定

ケ) 特別養護老人ホームなどの慰問活動(複数回)で舞を披露。



ここでは、舞を披露するだけでなく、継承活動にどのように取り組んできたのか、その様子についても発表した。

(3) 地域の伝統を受け継ぎ、進んで伝えようとする子どもたち

子どもたちは、練習する中で悩んだり、嫌になったりすることがある。しかし、発表すると知らない方からも「がんばったね」「上手だったよ」と声をかけられる。見てくれた人の笑顔を見ることで、それまで努力を続けてきたこと、獅子舞をやってきたことのよさを実感している。

また、獅子舞の発表をすると、見てくれた人から練習の様子や練習の苦勞について質問されることが多い。それらの質問に対して、子どもたちはあわてることなく、自分がやってきたことを振り返りながら、自信をもって答えている。これは、一部の子どものみだけでなく、どの子も同じである。獅子舞の継承活動を続けることで、自分自身に自信をもち、自分の考えを表現できるようになってきている。

(4) 地域とかかわり、ともに継承活動に取り組む

今年で20年目という息の長い取組である。長い年月を積み重ねることで、県内外のいろいろなところから発表してほしいという依頼や取材の依頼が来る。これは、それまでの先輩から毎年引き継いできた成果であることを子どもたちも理解し、責任をもって取り組んでいる姿が見られる。

子どもたちは、獅子舞保存会の方々とともに継承活動に取り組んでいる。特に、小栗山地域の不動院観世音大祭では、大人の獅子舞と子どもたちの獅子舞の両方が披露され、一体感をもって発表している。このような経験は、地域の伝統芸能を引き継ぐ活動を継続し、地域の中で取り組んでいるからこそできる経験であり、学びである。



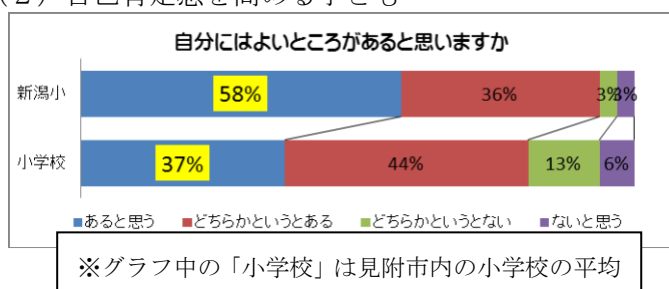
## 2 活動の成果

### (1) 伝統文化の世界に没頭する子ども

「教えてもらったとおりに演ずる」日本文化の世界に入り込む経験は、他の教科学習では味わうことができない。この経験は平成8年から継続していることで、新潟小学校の文化となっている。獅子舞活動は、体育館に子どもたちが正座し、整列するところから始まる。教科学習では、教師から指導され、教えてもらう部分も多い。その中で、学んだことを生かし、工夫したり、考えたりする部分も多い。しかし、獅子舞活動は、教科学習とは違い、「まずは教えられたとおりにそのままやる」という文化の世界である。その世界に子どもたちは、緊張感をもって入り込む経験をする。

4年生の秋から始めて6年生の秋までの2年間、一人の子がやるべきことは全く同じである。しかし、最初はできない。分かっているけれどできない。何度も何度も練習をする。家で自主練習をする子どもも多い。それでもできなくて、指導者に教えてもらい、また練習する。このようにあきらめずにできるまで取り組むことができるのは、それまでの先輩の姿を見ているからであり、伝統文化の世界に入り込んでいるからである。5年生になると獅子舞の動きができるようになる。しかし、できたからといって満足しているわけではない。6年生がその上の動きをするからである。6年生は1つ1つの動きにメリハリがあり、足がぐらつくこともない。5年生は、このような6年生の姿を見て、自分の動きにさらに磨きをかける。伝統文化の世界に没頭することで、自分自身と対話し、動きを磨きながら精神的にも成長していく。

### (2) 自己肯定感を高める子ども



子どもたちは獅子舞の発表活動を経験する度に自信を深めていく。学校内で発表するだけでなく、さまざまな場所で発表し、多くの人から見てもらう大きな舞台を経験することで、見た人から直接声をかけられ、認めてもらうことで自信を深めていく。また、特別養護老人ホーム等の福祉施設での発表では、2、3メートルの近い場所から見てもらえるた

め、子どもたちも見てくださる方の表情や様子を見ながら演じることができる。また、喜んだり、感動したりする姿を見たり、その場で感想をもらうことで、改めて続けてきたことのよさを実感している。

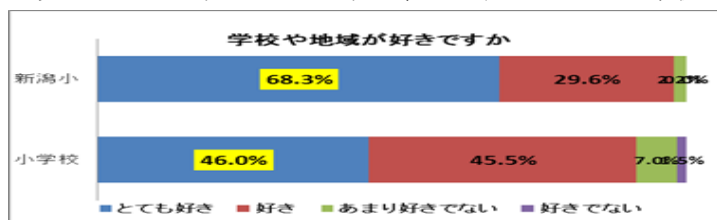
獅子舞活動を5年生に引き継いだ6年生が、こんなふうに獅子舞活動を振り返っている。

3人が黒い獅子の面をかぶって踊る獅子役を2年間担当しました。4年生の時に転校してきて初めて獅子舞を見たときはびっくりしましたが、地域の方の喜ぶ顔を見る度に、やってよかったと思いました。最初は振り付けを覚えられず、不安なときもありました。でも、去年の地域のイベントで初めて披露したとき、「すごいね」とほめられ、自信ができました。それからは迫力のある舞台になるよう、動作を大きくしようと心がけてきました。笛や太鼓の担当は、私たち獅子の動きをよく見て演奏をしてくれるので助けられました。獅子舞はみんなで舞台を作っているという一体感があります。これからの活動は5年生がメインになり、私たちは指導にまわります。卒業まで伝統を受け継ぐ大切さと責任感を伝えたいです。

さらに、外国の方との交流では、外国の伝統文化も学びながら、改めて子どもたち自身が引き継いできた獅子舞のよさに気付く。外国の方から「日本の文化はすごい」「見附市の獅子舞は世界でも大切にしなければいけない伝統芸能です」「これからも獅子舞を伝えていってください」と認めてもらえることで、さらに自信を深め、獅子舞を受け継いでいくことの自覚と責任感を確かなものとしていた。

### (3) 地域を愛する子ども

次のグラフに見られるように、97.9%の子どもが学校や地域が好きだと答えている。学年別に見ると、4年生以上では100%の子どもが「学校や地域が好きだ」と答えている。昨年度以前の子どもたちの回答を分析すると、4年生になり、獅子舞活動が始まると「好き」と回答する子どもが増えている。



また、子どもたちは地域の活動に積極的に参加したり、貢献したりするようになってきたことを保護者や地域の方から聞くことが多くなった。例えば、小栗山地区では、ホテルの住む環境を地域で目指して活動しているが、子どもたちもそこに参加し、自然の整備はもちろん、ホテルの成長の記録をとるなど、自分たちの役割を自覚しながら活動に取り組んでいる。

以上のように、獅子舞活動を中核にすることで、地域に誇りを持ち、自覚と自信をもった子どもたちの成長した姿を見ることができた。